

原著論文

## 小学校道徳科におけるオリンピック・パラリンピック教育の特質 —道徳科教科書の分析を通して—<sup>1</sup>

広瀬 健一（法政大学）<sup>2</sup>

川上 若奈（関西外国語大学）<sup>3</sup>

### Abstract

The purpose of this study was to clarify the characteristics of Olympic and Paralympic education in the Morality Period in elementary schools based on the analysis of their textbooks.

First, as a result of extracting teaching materials on the subject of the Olympics and the Paralympics, most of them correspond to the content item of “hope, courage, effort and strong will”. Next, we extracted the subjects of teaching materials that covered Olympic and Paralympic and examined the relationship between the subjects and the content items, along with the contents of the reading materials and the question items that make children think in the textbooks. As a result, athletes who did extremely well in the Olympic and Paralympic Games and whose achievements were widely reported were featured in many teaching materials. It was also revealed that athletes who could not play in the Olympic and Paralympic Games and those who were not athletes but made a significant contribution to the Olympic and Paralympic Games were also taken up. Finally, we examined whether the content items of each teaching material featuring Olympic and Paralympic were consistent with three Olympic values: “excellence”, “respect” and “friendship”, and four Paralympic values: “courage”, “determination”, “inspiration” and “equality”. Among three Olympic values, “excellence” was most frequently mentioned, which is consistent with the fact that “hope, courage, effort and strong will” was the most frequent content item in teaching materials on the Olympic and Paralympic Games, as mentioned earlier. The content items of the teaching materials that correspond to “respect” are diverse, which is because that “respect” as the Olympic value is broadly considered to include people, rules, sports, and the environment. In addition, the Olympic value of “friendship” did not necessarily coincide with the content item of “friendship and trust” in moral education, and there was no specific subject that depicts “friendship” leading to mutual understanding in elementary school moral education textbooks.

---

<sup>1</sup> Characteristics of Olympic and Paralympic Education in Morality Period in Elementary Schools: Through Analysing Textbooks of Morality Period

<sup>2</sup> Hirose Kenichi, Hosei University

<sup>3</sup> Kawakami Wakana, Kansai Gaidai University

Four values of the Paralympic were mentioned in almost the same number of texts. “Courage” and “determination” were included in the “hope, courage, effort and strong will” content item, and “equality” was included in the “fairness, equity and social justice” content item. “Inspiration” was not listed as a content item for moral education, but it corresponded to teaching materials that depicted influences on other people and society.

As a result of this study, it was suggested that even if players and former players could not be invited to the school, the episodes and experiences of the players could be provided as teaching materials. In addition, dealing with the stories of athletes who could not participate in the Olympic and Paralympic Games and those who were not athletes but made a significant contribution to the Olympic and Paralympic Games in class can be an approach to issues such as human resource development of external instructors and secure the cost of lecture fees which are facing current Olympic and Paralympic education. This may open up new possibilities for Olympic and Paralympic education. However, with regard to Olympic education, “excellence” was most taken up among three values. Furthermore, a comparison of Olympic-related materials and Paralympic-related materials showed that the latter was less featured. It should be noted that such a double bias is seen in the teaching materials on the subject of the Olympic and Paralympic in elementary school moral textbooks.

#### 抄録

本研究は、小学校道徳科におけるオリ・パラ教育の特質を、道徳科教科書の分析をもとに明らかにすることを目的とした。

まず、オリンピックやパラリンピックを題材とした教材を抽出した結果、「希望と勇気、努力と強い意志」の内容項目に当たるものが最も多かった。次に、各教材においてオリンピックやパラリンピックを取り上げている教材の題材を抽出し、読み物資料の内容、及び、教科書に記載された児童に考えさせる質問項目と併せて、題材と内容項目の関連について検討した結果、オリンピック・パラリンピックで活躍し、その活躍が大きく報じられた選手が多くの教材において取り上げられていた。また、オリンピックに出場できなかった選手や、スポーツ選手ではないものの、オリンピックやパラリンピックにかかわった人物も取り上げられていることが明らかとなった。最後に、各教材においてオリンピックやパラリンピックを取り上げている題材の内容項目が、オリンピックの3つの価値、すなわち、卓越性・敬意／尊重・友情と、パラリンピックの4つの価値、すなわち、勇気・強い意志・インスピレーション・公平と合致しているか検証した。オリンピックの3つの価値のうちで「卓越性」が最も取り扱われる数が多く、これは、先述の通り、オリンピック・パラリンピックを題材とした教材の内容項目は「希望と勇気、努力と強い意志」が最も多いことと合致している。「敬意／尊重」に該当する教材の内容項目は多岐にわたり、それは、オリンピックの価値としての「敬意／尊重」が、人間や規則、スポーツ、環境と幅広く捉えられていることに因る。また、オリンピックの価値としての「友情」と、道徳科の内容項目としての「友情、信頼」とは、必ずしも一致せず、小学校の道徳科教科書においては、相互理解に至る「友情」を描く具体的な題材はないと言える。パラリンピックの4つの価値については、ほぼ同じ数が取り上げられていたことが明

広瀬健一・他：小学校道徳科におけるオリンピック・パラリンピック教育の特質—道徳科教科書の分析を通して—

らかとなった。「勇気」や「希望」は「希望と勇気，努力と強い意志」の内容項目として掲載されている教材に、「公平」は「公正，公平，社会正義」の教材に概ね合致した。また、「インスピレーション」は道徳教育の内容項目には挙げられていないものの，他の人や社会に影響を与える姿が描かれている教材に該当した。

以上の結果から，実際に選手や元選手から話を聞くことができない学校においても，選手のエピソードや体験などを教材として提供することが可能であることが示唆された。さらに，オリンピック・パラリンピックに選手として出場できなかったスポーツ選手の物語や，スポーツ選手ではないが，オリンピックやパラリンピックにかかわった人物が活躍した物語を授業で取り扱うことは，現状のオリ・パラ教育が抱える外部講師の人材育成，費用の確保などの課題に対する一つのアプローチとなり得ることから，オリ・パラ教育の新たな可能性を拓くものであると考えられる。しかし，オリンピック教育に関しては3つの価値のうちで「卓越性」が取り上げられることが多かった。さらに，オリンピックに関連する題材とパラリンピックに関連する題材とを比較すると，後者が少ないことが示された。小学校の道徳科教科書のオリンピック・パラリンピックを題材とした教材にこのような二重の偏りが見られることは，注視するべき事柄であると言える。

Keywords: Olympic Education, Paralympic Education, Moral education, Textbook of Morality  
Period, Elementary school

キーワード：オリンピック教育，パラリンピック教育，道徳教育，道徳科教科書，小学校

## 1. はじめに

国際オリンピック委員会（以下：IOC）によるオリンピック憲章においては、「オリंपイズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め，バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリंपイズムはスポーツを文化，教育と融合させ，生き方の創造を探究するものである。その生き方は努力する喜び，良い模範であることの教育的価値，社会的な責任，さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする」<sup>1)</sup>と，オリंपイズムの根本原則が記されている。オリंपイズムと教育に関するものとして，IOCは，オリンピック価値教育（The Olympic Values Education Program：OVEP）という教育プログラムを作成している。その教材である『オリンピック価値教育の基礎』においては，卓越性（Excellence），敬意／尊重（Respect），友情（Friendship）をオリंपイズムの3つの本質的価値とし，オリंपイズムの根本原則に基づき「努

力から得られる喜び」，「フェアプレー」，「敬意／尊重の実践」，「卓越性の追求」，「身体，意志，精神のバランス」という5つの教育テーマが設定され，それぞれの教育プログラムが収録されている<sup>2)</sup>。また，国際パラリンピック委員会（IPC）は，勇気（Courage），強い意志（Determination），インスピレーション（Inspiration），公平（Equality）をパラリンピックの4つの価値としている<sup>3)</sup>。

我が国のオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの取り組みとして，文部科学省が設置したオリンピック・パラリンピック教育（以下：オリ・パラ教育）に関する有識者会議における報告では，オリ・パラ教育を進めるに当たっては，オリンピックの3つの価値とパラリンピックの4つの価値を踏まえる必要があり，こうした基本的な価値を学び，社会の変革のきっかけとしていくことが重要であるとされている<sup>4)</sup>。

オリ・パラ教育の具体的内容は，大別して「オリンピック・パラリンピックそのものについての

学び」と、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」から構成されている<sup>5)</sup>。「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」は、「オリンピック・パラリンピックに関する知識（歴史、競技種目、アスリートのパフォーマンスや努力のすごさ、オリンピック精神、パラリンピックの意義、用具の工夫・開発やクラス分け等のパラリンピックの特性等）のほか、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み、オリンピック・パラリンピックの負の部分と改善に向けた取組（商業主義が引き起こす歪みと IOC 改革の取組、スポーツの公平性を蝕むドーピングの問題点とアンチ・ドーピングの取組等）について学ぶこと」<sup>6)</sup>が挙げられている。他方の「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」は、「オリンピック・パラリンピックを契機としてスポーツの価値（スポーツが個人や社会にもたらす効果）を学ぶこと」<sup>7)</sup>が考えられている。具体例として、「スポーツまたはスポーツマンシップが、チャレンジや努力を尊ぶ態度、ルールの尊重やフェアプレーの精神、スポーツ・インテグリティの保持、他者の尊重や自己実現、健康増進等にもたらす効果を学び、スポーツをしようとする気運や体を動かすことへの自発的な関心の向上、生涯にわたってスポーツに積極的に参画することにつながること」<sup>8)</sup>が挙げられている。

小学校学習指導要領の体育科の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「オリンピック・パラリンピックに関する指導として、フェアなプレイを大切にするなど、児童の発達の段階に応じて、各種の運動を通してスポーツの意義や価値等に触れることができるようにすること」<sup>9)</sup>と記されている。これは、スポーツの価値を学ぶ「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」に相当するものである。依田ら<sup>10)</sup>は、学校における「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」の実施内容を調査した結果、小学校においては、「チャレンジや努力を尊ぶ態度」、「ルールの尊重」、「フェアプレーの精神」の学習が高い割合を示したこと

を報告している。以上のような学習内容は、学校における道德教育の内容とも合致している。小学校学習指導要領では、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の要として「特別の教科 道德(以下:道德科)」が設定され、道德科の内容として「希望と勇氣、努力と強い意志」、「規則の尊重」、「公正、公平、社会正義」があげられている<sup>11)</sup>。

今日の学校教育におけるオリ・パラ教育に関して、中学校第3学年<sup>12)</sup>と高校<sup>13)</sup>においては、体育の内容の一つである「体育理論」でオリンピック・パラリンピックを扱うことが学習指導要領に規定されている。そのため、舛本<sup>14)</sup>が、オリ・パラ教育の充実のために、体育理論だけでなく歴史や社会科、あるいは現代社会や道德などと連携することを提案しているように、「体育理論」を中心として、他教科との連携を通してオリ・パラ教育を推進することが可能である。しかし、「体育理論」が内容として設定されていない小学校においては、道德科がオリ・パラ教育の理念を実現するために担う役割は大きいと予想される。

オリ・パラ教育と道德教育との連携について述べられた先行研究として、宮崎<sup>15)</sup>は2016・17年オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書の分析を行っている。その中で、オリ・パラ教育は体育・保健体育においては、これまで行われている運動領域を、外部講師を招いて教えてもらったり、パラリンピック種目を授業の中で取り上げたりする事例が見られたが、保健体育以外の教科で展開された事例は少なく、活動内容を道德／生活科で行っている割合は5.2パーセントであったことが明らかになっている。宮崎は「道德では選手のエピソードなどを活用して、目標に向かって努力すること、困難に立ち向かうこと、あきらめずに努力すること、友情をはぐくむことなど、道德や特別活動の目標に合った身近な教材としての展開が可能である」<sup>16)</sup>と述べており、続けて、「実際に選手や元選手から話を聞くことが重要な学びにつながるが、実際に話を聞かなくとも、選手のエピソードや体験などを文章と



しての資料や映像などを使って教材を作成することも必要であろう」<sup>17)</sup> とオリ・パラ教育の発展可能性を示唆している。これはオリ・パラ教育の実践にあたり、外部講師として選手を招くことが難しい学校においても教育的な効果を得るための方法の一つであると考えられる。事実、オリ・パラ教育の現状としては、外部講師の人材育成、費用の確保などの課題があることが明らかとなっており<sup>18)</sup>、さらには、大会終了後には大会組織委員会も解散し、中央省庁の担当部署もなくなることは自明で、オリ・パラ教育に予算が付くことは見込めないことが指摘されている<sup>19)</sup>。そのため、学校では予算内で実施可能なオリ・パラ教育の方法を模索する必要があると考えられる。

しかしながら、道徳科の小学校学習指導要領(平成 29 年告示)においては、オリ・パラ教育に対する直接的な言及は無く、本研究の問題意識に即した小学校の道徳科におけるオリ・パラ教育に関する研究は管見の限り見当たらない。そのため、小学校の道徳科で使用されている教科書に掲載されたオリ・パラ教育に関する教材を検討することで、今後のオリ・パラ教育の充実に向けた有益な情報を提供することができると考えられる。そこで本研究では、道徳科におけるオリ・パラ教育の特質を、小学校の道徳科教科書の分析をもとに明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

### 2.1 対象

本研究は平成 30 年度の文部科学大臣による教科書検定に合格した全 8 社の小学校の道徳科教科書を対象とした。8 社は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきであった。

### 2.2 オリンピック・パラリンピックを題材とした教材の抽出

上記 8 社の道徳科教科書より、「オリンピック」

「パラリンピック」という言葉が記載されている教材を選出した。ただし、教材にスポーツやスポーツ選手が取り上げられているのみの場合は除いた。教材としては、内容項目が配置され、1 単位時間が配当されている教材のみを抽出し、1 授業時数が配当されていないコラム及び付録は除外した。

また、教材に該当する内容項目としては、主となる内容項目のみを同定し、関連する内容項目は明示されていても算出しなかった。

### 2.3 分析の視点

まず、オリンピックやパラリンピックを題材とした教材は、何を目的としているか、すなわち、どの内容項目の教材として用いられているか整理する。次に、各教材において取り上げられている題材を抽出し、読み物資料の内容、及び、教科書に記載された児童に考えさせる質問項目と併せて、題材と内容項目の関連について検討する。最後に、上記内容項目が、オリンピックおよびパラリンピックの価値、すなわち、卓越性・敬意／尊重・友情、および、勇気・強い意志・インスピレーション・公平と合致しているか検証する。

卓越性、敬意／尊重、友情については、「卓越性、敬意／尊重、友情はオリンピックの 3 つの本質的価値であり、オリンピック競技大会およびユースオリンピック競技大会の核となる目標である」と『オリンピック価値教育の基礎』に明記されている<sup>20)</sup>。

オリンピックの 3 つの価値<sup>21)</sup> について、それぞれの用語と意味を表 1 に示す。

次に、パラリンピックの 4 つの価値<sup>22)</sup> について、それぞれの用語と意味を表 2 に示す。

これらを踏まえた上で、分析にあたり、オリンピックにかかわらず、ベストを尽くすことや努力の奨励が描かれている場合は「卓越性」、人間や規則への敬意／尊重が描かれている場合は「敬意／尊重」、相互理解やそれにつながる友情が描かれている場合は「友情」とした。また、パラリン

表1 オリンピックの3つの価値

用語	意味
卓越性	卓越性とは、スポーツであれ仕事であれ、ベストを尽くすことを意味する。重要なのは勝つことではなく、参加すること、進歩すること、肉体、意志、精神の健全な一体感を得ることである。
敬意／尊重	自分自身、自分の体、他者、規則や規定、スポーツ、環境への敬意／尊重が含まれる。
友情	友情は、オリンピック・ムーブメントの中心にある。友情は、スポーツが個人の人、また世界中の人々の相互理解に役立つことを教えてくれる。

表2 パラリンピックの4つの価値

用語	意味
勇気	マイナスの感情に向き合い、乗り越えようという精神力
強い意志	困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力
インスピレーション	人の心を揺さぶり、駆り立てる力
公平	多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力

ピックに関わって、困難や自分の求めるものとは異なる状況を抱えた上で、感情の面で乗り越える姿が描かれている場合は「勇気」、実践の面で乗り越える姿が描かれている場合は「強い意志」とし、他の人への影響について描かれている場合は「インスピレーション」、多様性が尊重され、創意工夫によって平等に活躍することについて描かれている場合は「公平」とした。なお、分析にあたっては、体育・スポーツ科学を専門とする研究者1名と道徳教育を専門とする研究者1名、計2名で

検討した。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 内容項目

まず、平成30年度の文部科学大臣による教科書検定に合格した全8社（東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつき）の小学校の道徳科教科書におけるオリンピック・パラリン

表3 小学校道徳科教科書におけるオリンピック・パラリンピックを扱った教材の一覧（8社）

会社	学年	タイトル	オリ・パラの別
東京書籍	2	「ひろい せかいの たくさんの 人たちと」 pp.52-55	オリ・パラ
	4	「花丸手帳～水泳・池江璃花子選手」 pp.135-139	オリ
	6	「義足の聖火ランナー～クリス・ムーン」 pp.115-120	オリ
学校図書	2	「だいじょうぶ、キミならできる！」 pp.106-109	オリ
	3	「自分をしんじる心～選手・白井健三～」 pp.118-121	オリ
	4	「車いすをあやつって」 pp.82-84	パラ
	4	「ゆめに向かって、ジャンプ！」 pp.106-110	パラ
	5	「今しかできないことをがんばって！」 pp.44-48	オリ
	6	「オリンピックのくれたもの」 pp.92-95	オリ
教育出版	2	「国旗と国歌を大切に」 pp.118-119	オリ・パラ
	3	「ぼくらにとってなんだろう」 pp.63-65	オリ
	4	「ゆめに向かって泳ぐ～寺川綾～」 pp.92-97	オリ
	5	「長嶋茂雄の人生は七転び八起き」 pp.56-59	オリ
	5	「悲願の金メダル～上野由岐子～」 pp.112-115	オリ
	6	「人生を変えるのは自分～泰由加選手の挑戦～」 pp.6-9	パラ
	6	「祖国にオリンピックを」 pp.60-64	オリ
光村図書	6	「礼儀作法と茶道」 pp.102-105	オリ・パラ
	3	「わたしらしき」をのぼすために」 pp.142-145	オリ
	4	「より遠くへ～谷真海」 pp.136-141	パラ
	5	「世界最強の車いすテニスプレーヤー～国枝慎吾」 pp.186-190	パラ
日本文教出版	6	「自分を信じて～鈴木明子」 pp.23-27	オリ
	1	「オリンピック・パラリンピック」 pp.42-45	オリ・パラ
	3	「「おもてなし」ってなあに」 pp.120-123	オリ・パラ
	5	「ソフトボールに恩返しを～上野由岐子～」 pp.36-41	オリ
	6	「スポーツの力」 pp.4-7	パラ
	6	「東京オリンピック国旗に込められた思い」 pp.44-47	オリ・パラ
	6	「二十五人でつないだ金メダル」 pp.136-141	オリ
会社	学年	タイトル	オリ・パラの別
光文書院	2	「オリンピックとパラリンピックのはた」 pp.52-55	オリ・パラ
	3	「世界一うつくしい体そうをめざして～内村航平」 pp.62-65	オリ
	4	「十六番目の代表選手」 pp.118-121	オリ
	5	「氷上の挑戦～浅田真央」 pp.30-33	オリ
	6	「技術で「障がい」をなくしたい～遠藤謙一」 pp.86-89	パラ
	3	「ソフトボールで金メダルを」 pp.22-25	オリ
学研教育みらい	3	「パラリンピックにねがいこめて」 pp.106-109	パラ
	3	「すきなことから 高橋尚子物語」 pp.118-121	オリ
	4	「レスリングの女王 吉田沙保里」 pp.10-13	オリ
	4	「つながっている日本と外国」 pp.74-77	オリ
	4	「なみだとえがおの「なでしこジャパン」」 pp.102-105	オリ
	5	「世界に羽ばたく「航平ノート」」 pp.28-31	オリ
	6	「ひとと厚」 pp.16-19	オリ
廣済堂あかつき	6	「こだわりのイナバウアー」 pp.102-104	オリ
	1	「せかいが 一つに」 pp.76-79	オリ・パラ
	2	「自分で きめた ことだから～福原 愛～」 pp.70-73	オリ
	3	「きつとできる～高橋尚子～」 pp.66-69	オリ
	4	「ゆめはみるものではなく、かなえるもの～澤 穂希～」 pp.46-49	オリ
	4	「人間愛の金メダル」 pp.94-96	オリ
	4	「ふるさとにとどけ、希望の舞 ～羽生 結弦～」 pp.110-113	オリ
	5	「ぼくは伴走者」 pp.86-90	オリ
	6	「夢に向かって」 pp.58-61	パラ
	6	「兵後さんのパラリンピック」 pp.116-121	パラ

表4 オリンピック・パラリンピックを題材とした内容項目別の教材数

	内容項目	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断, 自律, 自由と責任							0
	正直, 誠実						0/1	1
	節度, 節制							0
	個性の伸長			4/0				4
	希望と勇気, 努力と強い意志		2/0	3/0	4/2	4/1	1/2	19
	真理の探究						0/1	1
B 主として人との関わりに関すること	親切, 思いやり							0
	感謝					2/0	1/0	3
	礼儀						(1)	1
	友情, 信頼				2/0		1/0	3
	相互理解, 寛容							0
C 主として集団や社会との関わりに関すること	規則の尊重					1/0		1
	公正, 公平, 社会正義			(1)	0/1			2
	勤労, 公共の精神						1/0	1
	家族愛, 家庭生活の充実							0
	よりよい学校生活, 集団生活の充実						1/0	1
	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度			(1)	1/0		1/0	3
	国際理解, 国際親善	(2)	(3)		1/0		(1)	7
D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さ				1/0			1
	自然愛護							0
	感動, 畏敬の念							0
	よりよく生きる喜び						0/1(1)	2
合計		2	5	9	12	8	14	

枠内における／の左側はオリンピック、右側はパラリンピックの教材数、( ) 内はオリ・パラ共通の教材数を記した。

ピックを扱った教材の一覧を表3に示した。

次に、8社の教科書における各内容項目別のオリンピック・パラリンピックを題材とした教材数を表4に示した。

内容項目ごとに見ていくと、最も多く取り上げられているのは「希望と勇気、努力と強い意志」の項目で教材の数は19であり、2年生から6年生まで、一貫して取り上げられている。次に「国際理解、国際親善」の7教材、次いで「個性の伸長」の4教材、「感謝」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「友情、信頼」の3教材、「公正、公平、社会正義」、「よりよく生きる喜び」の2教材、「正直、誠実」、「真理の探究」、「礼儀」、「規則の尊重」、「勤労、公共の精神」、「よりよい学校生活、集団生活の充実」、「生命の尊さ」の1教材の順で取り上げられていた。また、学年ごとに見ていくと、低学年（1、2年生）は「希望と勇気、努力と強い意志」と「国際理解、国際親善」の項目に偏っている。中学年以降になると、教材数ならびに項目数が増し、特に6年生になると内容項目が多岐にわたるようになることが示された。

依田らによって、小学校におけるオリ・パラ教

育の実態に関して、「チャレンジや努力を尊ぶ態度」、「ルールの尊重」、「フェアプレイの精神」の学習が高い割合を示したことが報告されているが<sup>23)</sup>、本調査における道徳科のオリ・パラ教育に関連する教材においては、「希望と勇気、努力と強い意志」の内容項目が最も多く取り上げられていた。オリンピックでの活躍を目指して努力を続けるオリンピックや障がいを超えてパラリンピックで活躍するパラアスリートを取り上げる趣旨は、小学校におけるオリ・パラ教育の学習において最も高い割合を示した「チャレンジや努力を尊ぶ態度」と合致するものである。一方で、小学校におけるオリ・パラ教育の学習において高い割合を示した「ルールの尊重」、「フェアプレイの精神」においては、道徳科の内容項目で「公正、公平、社会正義」、「正直、誠実」、「規則の尊重」で取り上げられているものの、その数は少ないことが示された。また、「国際理解、国際親善」に関しては、オリンピック・パラリンピックの知識を取り扱う教材だけでなく、1964年の東京オリンピックの際に、国旗作りを任された吹浦忠正氏を題材とした教材が取り上げられており、オリ

ピックで選手として活躍した人物だけでなく、オリンピック開催に貢献した人物を取り上げたオリ・パラ教育の教材が確認できた。

### 3.2 内容項目と題材

次に、8社の各学年の教科書におけるオリンピック・パラリンピックに言及している教材において取り上げられている人物やエピソードといっ

た題材、教材のタイトルと内容項目の一覧を表5に示した。なお、教材の中にオリンピックあるいはパラリンピックの表記があるものの、表記以上の説明がなく、言及にとどまる場合は、「言及」とし、()内にその教材のテーマあるいは、その教材におけるオリンピック・パラリンピックという言葉が記載された文脈を記載した。

表5から、オリンピックやパラリンピックの知

表5 各学年のオリンピック・パラリンピックを取り扱った教材のタイトル、題材、内容項目の一覧

種別	題材	タイトル	学年	内容項目
知識・ボランティア	オリンピック・パラリンピックの知識	オリンピック・パラリンピック	1	国際理解, 国際親善
	オリンピック・パラリンピックの知識	せかいが 一つに	1	国際理解, 国際親善
	オリンピック・パラリンピックの旗	オリンピックとパラリンピックのはた	2	国際理解, 国際親善
	ボランティア	オリンピックのくれたもの	6	勤労, 公共の精神
	国旗(吹浦忠正)	東京オリンピック国旗に込められた思い	6	国際理解, 国際親善
人物	浅田真央(オリンピック)	氷上の挑戦ー浅田真央ー	5	希望と勇気, 努力と強い意志
	池江璃花子(オリンピック)	花丸手帳〜水泳・池江璃花子選手	4	希望と勇気, 努力と強い意志
	内村航平(オリンピック)	世界ーうつくしい体そうをめざしてー内村航平ー	3	個性の伸長
	内村航平(オリンピック)	世界に羽ばたく「航平ノート」	5	希望と勇気, 努力と強い意志
	遠藤謙(義足開発研究者)	技術で「障がい」をなくしたいー遠藤謙ー	6	真理の探究
	上野由岐子(オリンピック)	ソフトボールで金メダルを	3	希望と勇気, 努力と 強い意志
	上野由岐子(オリンピック)	悲願の金メダルー上野由岐子ー	5	感謝
	上野由岐子(オリンピック)	ソフトボールに恩返しをー上野由岐子ー	5	感謝
	小日方邦子(パラリンピアン)	パラリンピックにねがいをこめて	3	公正, 公平, 社会正義
	ガブリエラ・アンデルセン(オリンピック)	ぼくは伴走者	5	規則の尊重
	キエル兄弟(オリンピック)	人間愛の金メダル	4	生命の尊さ
	国枝慎吾(パラリンピアン)	世界最強の車いすテニスプレーヤーー国枝慎吾	5	希望と勇気, 努力と強い意志
	クリス・ムーン(聖火ランナー)	義足の聖火ランナー〜クリス・ムーン	6	よりよく生きる喜び
	澤穂希(オリンピック)	ゆめはみるものではなく、かなえるものー澤 穂希ー	4	希望と勇気, 努力と強い意志
	白井健三(オリンピック)	自分をしんじる心ー体そう選手・白井健三ー	3	個性の伸長
	鈴木明子(オリンピック)	自分を信じてー鈴木明子	6	希望と勇気, 努力と強い意志
	高橋尚子(オリンピック)	すきなことから 高橋尚子物語	3	希望と勇気, 努力と強い意志
	高橋尚子(オリンピック)	きっとできるー高橋尚子ー	3	希望と勇気, 努力と強い意志
	根木慎志(パラリンピアン)	車いすをあやつって	4	公正, 公平, 社会正義
	谷(佐藤) 真海(パラリンピアン)	より遠くへー谷真海	4	希望と勇気, 努力と強い意志
	谷(佐藤) 真海(パラリンピアン)	ゆめに向かって、ジャンプ!	4	希望と勇気, 努力と強い意志
	谷(佐藤) 真海(パラリンピアン)	スポーツの力	6	よりよく生きる喜び
	谷(佐藤) 真海(パラリンピアン)	夢に向かって	6	希望と勇気, 努力と強い意志
	寺川綾(オリンピック)	ゆめに向かって泳ぐー寺川綾ー	4	希望と勇気, 努力と強い意志
	長野五輪テストジャンパー	二十五人でつないだ金メダル	6	よりよい学校生活, 集団生活の充実
	なでしこジャパン	なみだとえがおの「なでしこジャパン」	4	友情, 信頼
	内藤恵美(ソフトボール選手)	十六番目の代表選手	4	友情, 信頼
	羽生結弦(オリンピック)	ふるさとにとどけ, 希望の舞 ー羽生 結弦ー	4	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
	羽生結弦, 荒川静香(オリンピック)	こだわりのイナバウアー	6	感謝
	兵後正剛(パラリンピック代表)	兵後さんのパラリンピック	6	正直, 誠実
	福原愛(オリンピック)	自分で きめた ことから ー福原 愛ー	2	希望と勇気, 努力と強い意志
	フレッド和田勇(オリンピック準備委員会委員)	祖国にオリンピックを	6	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
	松岡修造(オリンピック)	だいじょうぶ, キミならできる!	2	希望と勇気, 努力と強い意志
	吉田沙保里(オリンピック)	「わたしらしさ」をのばすために	3	個性の伸長
	吉田沙保里(オリンピック)	レスリングの女王 吉田沙保里	4	希望と勇気, 努力と強い意志
	吉田沙保里(オリンピック)	今しかできないことをがんばって!	5	希望と勇気, 努力と強い意志
言及	言及(開催)	ひろい せかいの たくさんの 人たちと	2	国際理解, 国際親善
	言及(オリンピック表彰式)	国旗と国歌を大切に	2	国際理解, 国際親善
	言及(内村航平)	ぼくらにさってなんだろう	3	個性の伸長
	言及(「おもてなし」)	「おもてなし」ってなあに	3	伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
	言及(柔道)	つながっている日本と外国	4	国際理解, 国際親善
	言及(長嶋茂雄)	長嶋茂雄の人生は七転び八起き	5	希望と勇気, 努力と強い意志
	言及(秦由加子)	人生を变えるのは自分 ー秦由加子選手の挑戦ー	6	希望と勇気, 努力と強い意志
	言及(「おもてなし」)	「礼儀作法と茶道」の一部「おもてなしの心」	6	礼儀
	言及(オリンピック選手)	ひとと厚	6	友情, 信頼

「人物」の欄については五十音順, 学年順に記載した。  
「知識・ボランティア」, 「言及」の欄については, 学年順, 内容項目順に記載した。



識や国旗などが「国際理解、国際親善」の内容項目についての教材として用いられていることが分かる。また、開催に伴うボランティアについても、「勤労、公共の精神」において取り上げられていた。

人物についてみていくと、4つの教材において取り上げられているパラリンピアンは谷（佐藤）真海氏、3つの教材に取り上げられているオリンピックの上野由岐子氏や吉田沙保里氏など、オリンピック・パラリンピックで活躍し、その活躍が大きく報じられた選手が多く教材において取り上げられていた。内容項目としては、「希望と勇氣、努力と強い意志」が最も多く、「よりよく生きる喜び」や「感謝」、「個性の伸長」も該当している。

一方で、オリンピック・パラリンピックに選手として出場できなかったスポーツ選手も取り上げられている。長野五輪テストジャンパーを題材とした教材は、「よりよい学校生活、集団生活の充実」の教材として取り上げられている。また、北京オリンピック直前に怪我で代表から外された内藤恵美氏は、「友情、信頼」の教材として取り上げられている。さらに、2002年のソルトレークシティーパラリンピックに視覚障害アルペンスキーの代表選手として選ばれていたものの、開会式前の視力検査で基準を超えた視力が出て失格処分となった兵後正剛氏は、「正直、誠実」の教材として取り上げられている。

さらには、遠藤謙氏、フレッド和田勇氏といった、スポーツ選手ではないが、オリンピックやパラリンピックに関わった人物も、題材として取り上げられている。

遠藤謙氏は義足開発者で、「真理の探究」の教材として取り上げられており、主に3種類の義足（ロボット義足、安くて質のよい義足、競技用義足）の開発に取り組む研究者としての姿が描かれている。遠藤氏は、陸上選手やコーチたちとチームを組み、パラリンピックを目指した競技用義足の開発を続けており、「義足をかくことで足をもつ人の能力をこえられたら、人々から、障がいのある人への差別の意識がなくなるのではないだろう

か。そうなれば、障がいのある人たちも、進んで社会に参加できるようになるだろう」<sup>24)</sup> という遠藤氏の「技術で障害と差別をなくすこと」への思いが紹介されている。本教材では、授業で学んだことを生活の中で実践してみたり深めたりする設問として、「人々のために研究を続けた人について調べて、その人の生き方から学んだことをしょうかいしましょう」<sup>25)</sup>と記載されている。

フレッド和田勇氏は、1964年の東京オリンピックの招致活動を行った人物で、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の教材として取り上げられている。アメリカ合衆国のワシントン州で日系二世として生まれた和田氏は、1949年にロサンゼルスで開催された全米水泳選手権大会に派遣される日本代表を自宅に宿泊させ、食事を提供するなどのサポートを行った。1964年の東京でのオリンピック開催に向けて、苦難の中、自費で各国を歴訪するなどの活動を行った。さらに、和田氏が残したものとして、「日本が好きで好きでならないのです。日本のために少しでもお役に立ちたいと願っております」<sup>26)</sup>という言葉が紹介されている。この読み物資料の後に、「考えよう」、「深めよう」という項目において、児童に考えさせたり交流させたりする内容が書かれている。「考えよう」として、「和田勇は、どのような思いで水泳日本選手団のために献身的につくしたのでしょうか」<sup>27)</sup>、「和田勇がオリンピックの招致活動を引き受け、がんばることができたのはなぜでしょう。和田勇の生き方を支えた思いについて考えを交流しましょう」<sup>28)</sup>、「東京オリンピック開催が決まったとき、和田勇はどんな気持ちだったのでしょうか」<sup>29)</sup>という内容が記載されている。「深めよう」としては、「和田勇の生き方で、自分が大切にしたいと思ったのはどんなことですか。友達と考えを交流しましょう」<sup>30)</sup>と書かれている。このように和田氏は、日本人選手団や日本でのオリンピック開催に尽力した人物として取り上げられ、その教材は「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を取り扱うものとして、日本のために尽くす

姿勢について児童に考えさせるものとなっている。

### 3.3 価値の検証

最後に、前節において抽出した内容項目が、オリンピックの3つの価値、すなわち、卓越性・敬意／尊重・友情と、パラリンピックの4つの価値、すなわち、勇気・強い意志・インスピレーション・公平と合致しているか検証する。8社の各学年の教科書における題材と内容項目、オリンピック・パラリンピックの別、その教材において取り扱われているオリンピック・パラリンピックの価値を表6に示した。また、オリンピックの3つの価値と、パラリンピックの4つの価値が取り扱われている教材の数を表7に示した。

表7から、オリンピックの3つの価値のうち、「卓越性」が最も取り扱われる数が多いことがわかる。その理由として、3.2で述べた通り、オリンピックで活躍した人物が多く題材とされ、その努力する姿が描かれているためであると考えられる。こ

の結果は、「希望と勇気、努力と強い意志」が内容項目の中で最も多く取り上げられているという

3.1における結果と合致していると言える。表6においても、内容項目が「希望と勇気、努力と強い意志」であり、オリンピックに関する内容の教材は、全て、3つの価値のうち「卓越性」が価値に当てはまることが示されていた。

表7から、「敬意／尊重」は、約3分の1の題材に該当したことが分かる。「敬意／尊重」に該当する教材の内容項目は、「個性の伸長」、「希望と勇気、努力と強い意志」、「感謝」、「規則の尊重」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「国際理解、国際親善」、「生命の尊さ」と、多岐にわたっていた。また、敬意／尊重の対象も、他のスポーツ選手から、自分を支えてくれた人、規則、郷土や国と多岐にわたっていた。例えば、内容項目が「規則の尊重」に該当する「ぼくは伴走者」という教材では、1984年ロサンゼルス・オリンピックの女子マラソンの場面が取り上げられ、ゴール前で力尽きそうになり、転びそうになりな

表6 題材と内容項目、オリンピック・パラリンピックの別、価値の一覧

種別	題材	学年	内容項目	オリ・パラの別	オリンピックの3価値	パラリンピックの4価値
知識・ボランティア	オリンピック・パラリンピックの知識 日本文教出版	1	国際理解、国際親善	オリ・パラ	友情	—
	オリンピック・パラリンピックの知識 廣済堂あかつき	1	国際理解、国際親善	オリ・パラ	友情	—
	オリンピック・パラリンピックの旗	2	国際理解、国際親善	オリ・パラ	友情	—
	ボランティア	6	勤労、公共の精神	オリ	卓越性、友情	—
	国旗（吹浦忠正）	6	国際理解、国際親善	オリ	敬意/尊重	—
人物	浅田真央（オリンピック）	5	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	池江璃花子（オリンピック）	4	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	内村航平（オリンピック）	3	個性の伸長	オリ	卓越性	—
	内村航平（オリンピック）	5	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	遠藤謙（義足開発研究者）	6	真理の探究	パラ	—	公平
	上野由岐子（オリンピック）	3	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	上野由岐子（オリンピック）教育出版	5	感謝	オリ	敬意/尊重	—
	上野由岐子（オリンピック）日本文教出版	5	感謝	オリ	敬意/尊重	—
	小日方邦子（パラリンピック）	3	公正、公平、社会正義	パラ	—	インスピレーション、公平
	ガブリエラ・アンデルセン（オリンピック）	5	規則の尊重	オリ	敬意/尊重	—
	キエル兄弟（オリンピック）	4	生命の尊さ	オリ	敬意/尊重	—
	国枝慎吾（パラリンピック）	5	希望と勇気、努力と強い意志	パラ	—	インスピレーション
	クリス・ムーン（聖火ランナー）	6	よりよく生きる喜び	オリ	卓越性	—
	澤穂希（オリンピック）	4	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	白井健三（オリンピック）	3	個性の伸長	オリ	卓越性、敬意/尊重	—
	鈴木明子（オリンピック）	6	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	高橋尚子（オリンピック）学研教育みらい	3	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	高橋尚子（オリンピック）廣済堂あかつき	3	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	根本慎志（パラリンピック）	4	公正、公平、社会正義	パラ	—	公平
	谷（佐藤）真海（パラリンピック）学校図書	4	希望と勇気、努力と強い意志	パラ	—	勇気、強い意志
	谷（佐藤）真海（パラリンピック）光村図書	4	希望と勇気、努力と強い意志	パラ	—	勇気、強い意志、公平
	谷（佐藤）真海（パラリンピック）	6	よりよく生きる喜び	パラ	—	勇気、強い意志、インスピレーション
	谷（佐藤）真海（パラリンピック）廣済堂あかつき	6	希望と勇気、努力と強い意志	パラ	—	勇気、強い意志
	寺川綾（オリンピック）	4	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	長野五輪デストジャンパー	6	よりよい学校生活、集団生活の充実	オリ	卓越性	—
	なでしこジャパン	4	友情、信頼	オリ	卓越性	—
	内藤忠美（ソフトボール選手）	4	友情、信頼	オリ	卓越性	—
	羽生結弦（オリンピック）	4	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	オリ	敬意/尊重	—
	羽生結弦、荒川静香（オリンピック）	6	感謝	オリ	敬意/尊重	—
	兵後正剛（パラリンピック代表）	6	正直、誠実	パラ	—	—
	福原愛（オリンピック）	2	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	フレッド和田勇（オリンピック準備委員会委員）	6	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	オリ	敬意/尊重	—
	松岡修造（オリンピック）	2	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—
	吉田沙保里（オリンピック）	3	個性の伸長	オリ	卓越性	—
	吉田沙保里（オリンピック）学校図書	4	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性、敬意/尊重	—
	吉田沙保里（オリンピック）学研教育みらい	5	希望と勇気、努力と強い意志	オリ	卓越性	—

表7 オリンピック・パラリンピックの価値が取り扱われている教材の数

	価値	個数
オリンピックの 3 価値	卓越性	21/32
	敬意/尊重	10/32
	友情	4/32
パラリンピック の 4 価値	勇気	4/12
	強い意志	4/12
	インスピレーション	3/12
	公平	4/12

がらも懸命にゴールに向かっていく選手が描かれている。ルール上、その選手を助けてしまうとその選手が失格になってしまうことが説明され、その場면을テレビで観戦していた少年（ぼく）が参加した町内マラソン大会の場面に移動する。その大会において「ぼく」は、町内マラソン大会の車いすの部に出場した友人の伴走者を務めている。レースの終盤、友人が上り坂の局面で登りきれず止まってしまう場面において、友人の背中を押して助けてあげたい気持ちと、ルール上助けてしまうと失格になってしまうことへの抵抗心に揺れる「ぼく」が描かれている。

また、同じく女子ソフトボール代表選手としてオリンピックに出場した上野由岐子氏を取り上げた教材であっても、「感謝」と「希望と勇気、努力と強い意志」という異なる内容項目が設定された教材では、「卓越性」、「敬意／尊重」という異なる価値が該当した。このように、題材が同じ人物であっても、何を目的にしているかによって描き方が異なり、それにより価値も異なっていることが明らかとなった。

オリンピックの3つの価値の1つとしての「友情」は、個々人や世界中の人々の相互理解がその主眼にあることから、該当する教材が少なかった。内容項目が「友情、信頼」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」となっている教材でも、オリンピックの価値としての「友情」には該当しなかった。例えば、「なでしこジャパン」のチームが題材となり、「友情、信頼」が内容項目である教材は、

選手たちがお互いを信頼し合い、全力で戦った姿が描かれ、「本当の仲間とは、どんなものだろう」という問いが設定されているものの、相互理解はテーマとなっていない。一方で、「友情」が該当した教材の内容項目は、オリンピック・パラリンピックの知識が取り扱われた「国際理解、国際親善」や、ボランティアが描かれた「勤労、公共の精神」であった。ただし、オリンピック・パラリンピックの知識は、1年生及び2年生の教材であり、4年に一度開催されることや、世界中の国々の人々が集まることに触れられているのみである。したがって、相互理解に至る「友情」を描く具体的な題材はないと言える。

パラリンピックの4つの価値については、ほぼ同じ数を取り上げられていた。「勇気」と「強い意志」は、障害を乗り越えて挑戦する姿が描かれる教材が該当した。他の人への影響を表す「インスピレーション」は、4つの教材に該当した。「インスピレーション」に関して、例えば、車いすテニスプレイヤーの国枝慎吾氏を取り上げた教材は、ライバルに負けて挫けそうになっている少年が、国枝氏の活躍に勇気づけられる場面を描いており、「希望と勇気、努力と強い意志」の内容項目に該当している。一方、アルペンスキーのパラリンピアンの大日方邦子氏を取り上げた教材においては、大日方氏自身がパラリンピックで活躍することによって、障がいのある人のことを知ってもらい、バリアフリー化を進めることができるという大日方氏の考えが紹介されている。なお、この教材の内容項目は「公正、公平、社会正義」に該当している。このように、他の人や社会に影響を与える「インスピレーション」自体は道徳教育の内容項目には挙げられていないものの、以上の教材は、「希望と勇気、努力と強い意志」や「公正、公平、社会正義」に関連する学びを提供することができると言える。「公平」は、「希望と勇気、努力と強い意志」、「真理の探究」、「公正、公平、社会正義」を扱う教材に該当した。それらの教材においては、障害を持つ人もそうでない人も、誰も



が平等に暮らせる社会を目指す姿や、さらには、スポーツにおいて健常者を上回る記録を出すための競技用義足の開発を目指す姿が描かれていた。

#### 4. 本研究のまとめ

以下に、本研究で得られた成果をまとめる。

まず、オリンピックやパラリンピックを題材とした教材は、何を目的としているか、すなわち、どの内容項目の教材として用いられているか整理した結果、「希望と勇気、努力と強い意志」の内容項目に当たるものが最も多く、2年生から6年生まで、一貫して取り上げられている一方、学年が上がるとその内容項目は多岐にわたるようになることが示された。

次に、各教材においてオリンピックやパラリンピックを取り上げている題材を抽出し、読み物資料の内容、及び、教科書に記載された児童に考えさせる質問項目と併せて、題材と内容項目の関連について検討した結果、オリンピック・パラリンピックで活躍し、その活躍が大きく報じられた選手が多くの教材において取り上げられていた。内容項目としては、「希望と勇気、努力と強い意志」が最も多く、「よりよく生きる喜び」や「感謝」、「個性の伸長」も該当していることが明らかとなった。一方で、オリンピック・パラリンピックに選手として出場できなかった選手は「よりよい学校生活、集団生活の充実」、「友情、信頼」、「正直、誠実」の教材として取り上げられていた。また、遠藤謙氏、フレッド和田勇氏のように選手ではないものの、オリンピックやパラリンピックにかかわった人物も題材となっており、「真理の探究」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の教材として取り上げられていることが明らかとなった。

最後に、各教材においてオリンピックやパラリンピックを取り上げている題材の内容項目が、オリンピックの3つの価値とパラリンピックの4つの価値と合致しているか検証した。オリンピックの3つの価値のうちで「卓越性」が最も取り扱わ

れる数が多く、これは、先述の通り、オリンピック・パラリンピックを題材とした教材の内容項目は「希望と勇気、努力と強い意志」が最も多いことと合致している。「敬意／尊重」に該当する教材の内容項目は多岐にわたり、それは、オリンピックの価値としての「敬意／尊重」が、人間や規則、スポーツ、環境と幅広く捉えられていることに因る。また、オリンピックの価値としての「友情」と、道徳科の内容項目としての「友情、信頼」とは、必ずしも一致せず、小学校の道徳科教科書においては、「友情、信頼」を内容項目としている教材の中で相互理解に至る「友情」を描く具体的な題材はないと言える。

パラリンピックの4つの価値については、ほぼ同じ数を取り上げられていたことが明らかとなった。「勇気」や「希望」は「希望と勇気、努力と強い意志」の内容項目として掲載されている教材に、「公平」は「公正、公平、社会正義」の教材に概ね合致した。また、「インスピレーション」は道徳教育の内容項目には挙げられていないものの、他の人や社会に影響を与える姿が描かれている教材に該当した。

#### 5. 結論

本研究は、道徳科におけるオリ・パラ教育の特質を、小学校の道徳科教科書の分析をもとに明らかにすることを目的とした。本研究の結論は、以下の2点にまとめられる。

第一に、先行研究に示されてこなかった、道徳科におけるオリ・パラ教育の可能性を指摘した点である。全ての会社の教科書においてオリンピック・パラリンピックに関連する題材が掲載されており、実際に選手や元選手から話を聞くことができない学校においても、選手のエピソードや体験などを道徳教育の教材として提供することで、道徳科においてオリ・パラ教育を実施することが可能であるといえよう。これは、現状のオリ・パラ教育が抱える外部講師の人材育成、費用の確保な



どの課題に対する一つのアプローチとなり得る。また、オリンピック・パラリンピックに選手として出場できなかったスポーツ選手の物語や、選手でなくとも、オリンピックやパラリンピックにかかわった人物が活躍した物語を授業で取り扱うことは、オリ・パラ教育の新たな可能性を拓くものであると考えられる。

第二に、道徳科におけるオリ・パラ教育の特質を明らかにした点である。オリンピック教育に関しては3つの価値のうちで「卓越性」が取り上げられることが多く、オリンピックに関連する題材とパラリンピックに関連する題材とを比較すると、パラリンピックに関連する題材の方が少ないことが示された。小学校の道徳科教科書のオリンピック・パラリンピックを題材とした教材にこのような二重の偏りが見られることは、注視すべき事柄であると言える。

今後の課題としては、「希望と勇気、努力と強い意志」や「卓越性」の内容項目に合致する題材に偏っていることから、設定された内容項目を取り扱うのに都合の良いようにストーリーが歪められたりしていないか、道徳教育の面から教材を検討する必要があると考える。

## 註

- 1) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会誌（2019）オリンピック憲章 Olympic Charter 2019 年版・英和対訳（2019 年 6 月 26 日から有効）。p.10. <https://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2020.pdf>（参照日：2021 年 2 月 22 日）
- 2) 国際オリンピック委員会：日本オリンピック委員会誌（2017）オリンピック価値教育の基礎。p.18. <https://www.joc.or.jp/olympism/ovep/pdf/ovep2017.pdf>, <https://stillmedab.olympic.org/media/Document%20Library/OlympicOrg/IOC/What-We-Do/Promote-Olympism/Olympic-Values-Education-Programme/Toolkit/The-Fundamentals/English.pdf?la=en&hash=9943271F83899799BE23594F7E75D876475785B1>（参照日：2021 年 2 月 22 日）
- 3) 国際パラリンピック委員会：日本パラリンピック委員会誌。パラリンピックの価値 <https://www.jsad.or.jp/paralympic/what/index.html>, <https://www.paralympic.org/feature/what-are-paralympic-values>（参照日：2021 年 2 月 22 日）
- 4) オリリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議（2016）オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて（最終報告）p.3-4. [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/004\\_index/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/004_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094_01.pdf)（参照日：2021 年 2 月 22 日）
- 5) 同上書，p.4.
- 6) 同上書，p.5.
- 7) 同上書，p.5.
- 8) 同上書，p.5.
- 9) 文部科学省（2017）小学校学習指導要領（平成 29 年告示），p.155. [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661\\_4\\_3\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf)（参照日：2021 年 2 月 22 日）
- 10) 依田充代・清宮孝文・門屋貴久（2017）オリンピック・パラリンピック教育の現状と課題。オリンピックスポーツ文化研究，2，pp.31-45. 依田らによると，小学校で高い数値を示したのは「チャレンジや努力を尊ぶ態度」18.5%，「ルールの尊重」12.9%，「フェアプレイの精神」12.1%であった。中学校で高い数値を示したのは「チャレンジや努力を尊ぶ態度」13.2%，「スポーツマンシップ」11.7%，「他者への尊重や自己実現」11.2%であった。高等学校で高い数値を示したのは「他者への尊重や自己実現」13.8%，「チャレンジや努力を尊ぶ態度」11.4%，「生涯にわたってのスポーツに積極的

に参画すること」10.2%であった。一般で高い数値を示したのは「スポーツが個人や社会にもたらす効果」19.7%,「他者の尊重や自己実現」18.0%,「チャレンジや努力を尊ぶ態度」,「スポーツをしようとする機運」9.8%であった。

- 11) 文部科学省 (2017), 前掲書, pp.166-170. なお, 「各教科, 外国語活動, 総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うこと」に留意するよう記載されている。p.170.
- 12) 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示), p.124. [https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf) (参照日: 2021 年 2 月 22 日)
- 13) 文部科学省 (2018) 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示), p.134. [https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_6\\_1\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf) (参照日: 2021 年 2 月 22 日)
- 14) 舩本直文 (2012) 「オリンピック教育」の今日的課題. 体育科教育, 60 (7), pp.14-17.
- 15) 宮崎明世 (2019) 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の展開と評価: 2016・2017 年オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書から. 体育学研究, (64), p.860. なお, 宮崎はオリ・パラ教育の充実に向けて実際に行われた教育活動は「学習」, 「日常生活」, 「学校行事」, 「外部講師による講習」, 「交流」に分類できたことを報告している。具体的には, 「学習」は「スポーツや文化に関する調べ学習」, 「オリンピック・パラリンピックについて」, 「スポーツや文化についての調べ学習」, 障がい者スポーツにつ

いて学ぶ「I'mPOSSIBLE」が挙げられる。「日常生活」は「オリンピック・パラリンピックコーナーの設置」, 「地域行事への参加」, 給食にホストタウンなどで関連のある国の料理を提供し, 児童生徒にその国に関する調べ学習をさせるなどの「給食の活用」の活動であった。「学校行事」は「運動会・持久走大会・発表会」の実施が挙げられ, 「交流」は特別支援学校と普通学校との交流が多かったことが確認されている。同上論文, pp.860-861.

- 16) 同上論文, p.866.
- 17) 同上論文, p.866.
- 18) 同上論文, p.864.
- 19) 同上論文, p.866.
- 20) 国際オリンピック委員会: 日本オリンピック委員会誌 (2017), 前掲書, p.17
- 21) 同上書, p.17
- 22) 国際パラリンピック委員会: 日本パラリンピック委員会誌. 前掲サイト.
- 23) 依田充代・清宮孝文・門屋貴久 (2017), 前掲論文.
- 24) 編集委員会 (2019) 技術で「障がい」をなくしたいー遠藤謙一. 小学道徳 ゆたかな心 6 年, 公文書院, pp.88-89.
- 25) 同上書, p.89.
- 26) 編集委員会 (2019) 祖国にオリンピックを. 小学道徳 6 はばたこう明日へ, 教育出版, p.64.
- 27) 同上書, p.64.
- 28) 同上書, p.64.
- 29) 同上書, p.64.
- 30) 同上書, p.64.

(受理日: 2021 年 4 月 15 日)